

平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「0+1 (ゼロ・プラス・ワン)」 きのと違う自分に出会える 「21 世紀型スキル養成スクール」カナオカン・アカデミー！

本校は「21 世紀型スキル (ジェネリック・スキル=汎用的能力) 養成スクールをめざす。
そして、あらゆる力の源泉は、言葉のチカラ=「(母語の) 言語技術」であると改めて宣言する。

気が付けば「正解のない時代」に突入している。指示を待ち、与えられた問題にそつなく答えを出せば事足りる、そんな情報処理型のスキルだけで通用する時代はとっくの昔に終わっている。これまでは、より多くの知識を蓄え、それを求めに応じて安定的に再生できればよかった。がしかし既に、社会は大きく変化している。そしてその社会の変化にもなまって、求められている能力や人材も大きく激変している。自発的・主体的・能動的に、みずから問題を発見し、論理的に思考し、あふれる情報の中から必要な情報をピックアップして編集・再構成し、そして新たに見出した問題を協同でコミュニケーションを取りながら、創造的に解決していく力=「21 世紀型スキル」が求められている。さまざまな知識や情報を活用して、目の前の問題を異なる他者と共に対話しながら解決していく力=「汎用的能力 (ジェネリックスキル)」が求められている。

いやいや、そんなことを今さら言われなくても、そもそもそれこそが実社会なのだし、大げさにいえば、それこそが人生そのものであり、人生の醍醐味なのだ。5年後、10年後の未来など誰にもわかりはしない。であるから、たとえどのような道に進もうとも、いかなる未来が待ち構えているとも、うまくいっている時も、そうでない時も、一日一日を大切に、くじけず、あきらめず、失敗を恐れず、校訓「克己 (セルフ・コントロール)」の精神で、しなやかに、たおやかに、クリエイティブに、前を向いて、勇気をもって一步を踏み出せるようになりたい。なってもらいたい。

本校は、そうした生涯にわたって自分自身の人生を切り拓いていくことのできる基礎体力を身に付けるための、知徳体の鍛錬道場であり、新しい時代を生き抜いていく力=「21 世紀型スキル」「汎用的能力」を磨くためのトレーニングセンターをめざす。当然、生徒が主役だ。教師中心から学習者中心へ。Teaching (教員が教えること) から Learning (生徒が主体的に学ぶこと) へ。キーワードは、自ら学び、共に学びあう「アクティブラーニング」である。そうであるために本校の全教職員は、トレーニングセンターのプロフェッショナルなコーチとして、日々、自らの専門性とスキルをブラッシュアップし、視野を広げ、人間性を高め、学園生活のあらゆるシーンにおいて、生徒一人ひとりの能力を最大限に引き出すための工夫と情報と刺激を惜しみなく提供し続ける。日々、すべての生徒と教職員が、ゼロ・プラス・ワンを実践し続けよう。加点主義のプラス思考。失敗を怖れずに勇気をもって前へ一步を踏み出すゼロ・プラス・ワンを心がけよう。無条件の前例踏襲などもつてのほかだ。すべてにおいてゼロベースで自分の頭でクリエイティブに考えて、何ごとにもゼロ・プラス・ワン、付加価値を付け加えよう。迷ったらゼロに戻り、あきらめず、くじけず、何度でも立ち上がり、そしてまた再びゼロ・プラス・ワン、前へ一步を踏み出そう。さらに社会にプラス・ワン (貢献) しよう。そうした「ゼロ・プラス・ワン」を日々習慣化することによって、はじめて、きのと違う自分に出会うことができる。自分自身の人生を歩んでいくことができる。本校は、そんなチャレンジングでクリエイティブな学園空間となることを夢見ている。

1. 「21 世紀型スキル (汎用的能力=ジェネリック・スキル)」の育成授業による〈基礎学力の定着と向上〉〈自己肯定感の向上〉〈進路実現〉
2. 「ゼロ・プラス・ワン」精神を発揮できる環境の整備〈地域に貢献するグローバルなカナオカン・スタイルの確立〉

2 中期的目標

1. 「21 世紀型スキル (汎用的能力=ジェネリック・スキル)」育成授業による〈基礎学力の定着と向上〉〈自己肯定感の向上〉〈進路実現〉

(1) 全教職員が【授業革命】の旗手となり、そのキーワードとなる「アクティブラーニング」を積極的に実践して「教師力」「授業力」を磨き、生徒の主体的・能動的な学ぶ姿勢を引き出すことで「21 世紀型スキル (ジェネリック・スキル=汎用的能力)」を育成し、「自己肯定感」を高め、「進路実現」を強力にサポートする。

ア 若手を中心とする教科横断的メンバーで「プロジェクトチーム・ゼロ・プラス・ワン」を結成。ICT の利活用が可能な「アクテ・ラーニングルーム (以下「AL 教室」)」「学習支援型図書室ラーニング・コモンズ」の創設や、教職員間の意識改革などを通じて、教員による一方向的な講義形式から、生徒一人ひとりが主体的・能動的に学習できる教授法・学習法にシフトチェンジしていく。教師のファシリテーションスキルを磨き、授業スタイルそのものを工夫してトータルな授業力を最強化し、「21 世紀型スキル養成スクール」と呼ぶにふさわしい、臨場感あふれるワクワクするような魅力的な学習空間を組織的に創出していく。

※全教職員が AL 教室でアクティブラーニングにチャレンジする (AL チャレンジ率 100%目標)。

※全教職員が他の教員の授業を相互に見学して、意見や情報を交換し、お互いに切磋琢磨して授業の質を高めていく (授業見学率 100%目標)。

※生徒向け学校教育自己診断「授業はわかりやすい」を H27 \geq 80%、「授業参加度」H27 \geq 80%とする。

イ 全授業の冒頭で、その授業のプラス・ワン=「授業のタイトル (めあて)」を明示し、網羅的ではなく内容を厳選して「めあて」を柱とした授業を展開していく。また、その対として授業の最後に「まとめ」を行い、生徒が授業のビフォー・アフターで「1 時間前の自分と違う自分がここにいる!」「きのと違う自分に出会えた!」と思えるようなプラス・ワンを、全教職員が常に提供し続ける。

※授業の「タイトル (めあて)」明示率 H27 \geq 80%として、以後 100%をめざす。

ウ 学習ガイダンスや講習の充実、現役大学生・大学院生による放課後チューター制度の導入、自習空間 (学習支援型図書室ラーニング・コモンズ等) の整備など、学習習慣の確立と基礎学力の定着を徹底サポートする。その際、高校生活 3 年間を見通した学習支援プランを作成して、生徒の能力開発を支援していく。

※放課後チューター (現役大学生・大学院生による) を導入。平成 28 年には、年 10 回 \times 10 講座実施で延べ 1000 人の生徒が参加を目標。

※学力生活実態調査の学力指標 GTZ (H26.9 月:S1~S3=0%,A1~A3=0.6%,B1~3=24.6%,C1~3=56.5, D1~3=18.3%) で、国公立難関大学を狙える A ゾーンを H27=2% \rightarrow 3% \rightarrow 5%に。中堅校を狙える B ゾーンを H27=30% \rightarrow 40% \rightarrow 50%に。D ゾーンを H27 \leq 15% \rightarrow 10% \rightarrow 5%に。

※学力不足による留年・中退率 (H26=0.2%) を限りなくゼロに近づけ、年度末の進級率・卒業率を 100%とし、維持継続していく。

※本校が進学実績の指標と位置付ける難関校 (国公立・関関同立)、私立中堅校の合格者を、H28 には各 10 人超、100 人超とする。(H26=7 人、80 人)

※卒業時アンケートの学校満足度 (計画初年度 H26=87.6%) を、平成 28 年度までに限りなく 100%に近づける。

エ H26 年度の「ICT を活用した先進的な学習環境プラン支援校事業」(学校間でインターネット双方向ライブ配信システムの構築と、リアルタイムでインタラクティブな授業交換ができる環境を実験的に整え、学校相互の交換授業や他校の指導教諭によるサテライト授業を実施。また、これにより、学校間で切磋琢磨して、授業力の改善と最強化を図り、生徒に還元する) の推進。

※参加生徒の満足度 (H26=100%)、H27、H28 も 100%を継続。教職員の授業改善に対する肯定率 (H26=55.4%) を、H27=80%、H28=100%に。

※現役大学進学率 H25=45.7%を (計画初年度 H26=45.2%)、H27=55%、H28=65%に。

※進路希望実現率 (計画初年度 H26=59.3%) を、H27、H28 は前年比プラス 10%以上。

- (2) 生活習慣の確立と、一人ひとりの時間創造をサポートし、時間を有効に活用して「ゼロ・プラス・ワン」(挑戦と創造) を習慣化する

ア 規則正しい生活リズムを作る調査を実施し、啓発・支援活動を通じて、人生の限られた時間を取り戻す。

※携帯・スマホの使用時間を、高校生平均使用時間 (男子 4.3 時間、女子 6.4 時間) の半分以下にする。(計画初年度 H26 未達成=本校平均 4.4 時間)

※総遅刻者数を H27 \leq 3,000、H28 \leq 2,500 とする。

- (3) 「0+1 (ゼロ・プラス・ワン)」を実現する【骨太の日本語力養成プロジェクト】~生きる力の源泉「言葉のチカラ (言語技術)」を徹底マスター

- ア 総合的な学習の時間を活用して、H27 年度入学生より新教育課程「探究（笑育）」の授業を通年で展開。語彙力・言葉のチカラ（日本語の4技能＝読む、聞く、書く、話す力）と21世紀型スキル（問題発見&解決力、論理的思考力、情報編集力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、表現力など）を磨く。
※まずは2年計画で実践記録の集積による検証と指導内容・指導方法の改善を図り、また、評価する視点も研究開発。年度ごとに成果を発表する。
※大学等研究機関の協力を得て、各種の教育学的データを収集する。特に「自己肯定感」の変化に注目し、その向上に尽力したい。（肯定率80%以上）
- イ 語彙力増強を意図し、図書室を学習支援型のラーニングコモンズとして、各種の情報や仕掛けを間断なく提供していく。
※利用者数 H27≧20 人、H28≧30 人とする。
- ウ 新教育課程「探究（笑育）」以外でも、日々のすべての授業や活動で、言語技術のマスター、コミュニケーション能力のトレーニングなど21世紀型スキルのブラッシュアップを意識する。
※言語技術を意識した授業において、基本となる発語、発音、発話を丁寧に指導する。学校でしか聞くことのできない単調で抑揚のない「棒読みの音読や発表」をなくし、聞く人を意識したコミュニケーションの基本を徹底指導する。
※知的書評合戦ビブリオバトルの指導体制強化など各種の仕掛けで語彙力やCSの増強を図る。
- エ ソーシャルスキル（傾聴力、アンガーマネジメントなどエモーショナルリテラシー）やメディアリテラシーの育成
※教員向けに各種研修を実施し（H26=研修参加率31%）、また生徒向けにも実施する。

2 「0+1（ゼロ・プラス・ワン）」（挑戦と創造）スピリッツを発揮できる環境の整備：安心安全！グローバルなカナオカン・スタイルの確立

(1) 安心安全な学園環境を整える

- ア 教師による「～しなさい」「来なさい！」などや、「～させる」など使役の助動詞の文章の使用を見直し、さらには、いつも心穏やかでいられる学園空間を演出する。そのために「金高スマイル・プロジェクト」チームを編成する。
- イ 地域やPTA、周辺の小中学校などとも連携して自転車通学の安全を確保するなど、学園内外での安心安全な環境の整備。
※通学路での自転車事故ゼロをめざすと同時に、特殊な道路交通環境の改善整備を行政に働きかける。

(2) 教育相談体制、サポートの充実

- ア SSW（スクール・ソーシャルワーカー）とSC（スクールカウンセラー）を活用して、支援態勢をサポートする。
※本校独自の活動としてプロフェッショナルなSSWを招聘し、定期的にケース会議を開催（H26=8回実施、教師の精神的負担軽減指数80%実現）。
- イ 障がいのある生徒の自立と進路実現を目標に日常をサポートしていく。
※生徒向け独自調査による「障害のある生徒のために改善すべき点がある」（H25=86.7%）計画初年度 H26=83.1%を、H27%=50、H28=30%以下に
- ウ 本校独自に顧問弁護士と契約し、学校や教職員、生徒のトラブルを法的にアドバイスやサポートできるようにする。

(3) 地域との連携や、部活動・生徒会活動の活性化

- ア 教育活動に地域や保護者の皆さんに積極的に参加していただき、地域に支持される「グローバル・リーダーズ・ハイスクール」をめざす。
授業参観ウィークを設定すると同時に、通年で授業を公開し、在校生の保護者や、本校を進学先と考えている中学生とその保護者を歓迎する。
※授業参観ウィークの学校訪問者数100人。
※地域の支持を表している数値＝入学者選抜志願倍率を、毎年、府立高校（全日制普通科）の平均以上にする。
※吹奏楽部、軽音楽部、ボランティア部、ハンドメイキング部、公認帰宅部ほか各クラブや、音楽科、家庭科などの授業でも、地域や保護者、周辺施設と協働して交流を深めると同時に、生徒にさまざまな活躍できる場を提供する。
生徒の活躍の場を作ると同時に、学校の存在を確立していく。
- イ 生徒の自主性を尊重し、「生徒が主役」の生徒会、学校行事、HR活動、委員会活動、部活動をサポートする。
※現存する部活と生徒の希望する部活がマッチしているか調査を実施し、ギャップがあれば適宜見直し、クラブ加入活動率100%をめざす。
- ウ これまで夏休みを中心に教師が行っていた中学校訪問を、生徒にチェンジして、生徒にアポ取りから当日面談&報告まで「金岡アンバサダー」として責任をもって母校の中学校を訪問してもらう。
※教師ではなく生徒が母校の中学校を訪問する「金岡アンバサダー率」100%をめざす。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 27 年 11 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【学習指導等】 ○全般的に肯定値は昨年を上回っており、学習面に対する生徒の満足度はかなり高い。とくに1年生の肯定値は4項目中3項目で他学年を上回っており、今年度から導入した新教育課程「探究（笑育）」が、数値の押し上げに寄与したものである。また、9月から全ホームルーム教室にプロジェクターを設置し、ICT機器活用を奨励したこともあって情報機器活用率は94.4%と跳ね上がった。第1学年では同項目で93.5%、「先生は授業で生徒が発言する機会を設けている」も90%近い数値となっており、日々アクティブな授業を受けていることが伺える。</p> <p>【生徒指導等】 ○これまで60%の壁をなかなか破れなかった部活動加入率は93.3%を記録。多岐にわたる勧誘と環境整備に努めたこともあって1年生は100%を超える加入率を上げることに成功。特筆すべきは例年大きく減ってしまう3年生が今年度97.5%もの数値を上げたことで、3年学年団の生徒指導情報の共有と意思統一の努力の背景の上に、個々のクラブ顧問の努力があったの数値であると認識している。</p> <p>【学校運営】 ○「教員は授業などでコンピュータやプロジェクター等の情報機器を活用している」が肯定値94.4%となるなど、教員の日常におけるICT機器活用授業がほぼ定着しつつあると言える。昨年度に見られなかった大きな授業改善成果といえる。</p>	<p>第1回（7/16） ○H27年度学校経営計画について ・全国的な動きとして、授業形態がこれまでの知識詰め込み型一斉授業から生徒一人ひとりが主体的に授業に関わる「アクティブラーニング」の形態に移りつつある。大阪は取組みが遅れているようだが、視野の広い校長の手腕で、金岡高校の「授業革命」を成功してもらいたい。そのためには、「アクティブラーニング」を先進的に取り組んでいる高校に、各教科の若い先生を見学に行くよう図られたい。また、若い先生とベテランの先生が、うまく連携することが学校全体の活性化にとって不可欠と思われる。 ・図書室利用者数が昨年比で倍増。高校生全国平均1ヶ月1.7冊のところを金岡高校は3.04冊で上回ったことはすばらしい。 ・今後のビブリオバトルにおける金岡高校の活躍が楽しみ。</p> <p>第2回（11/17） ○ICT情報機器導入について ・ICT機器の導入を評価したい。また、先生方の頑張りを期待したい。 ○「探究（笑育）」について ・生徒のために頑張っており、それを生徒や保護者から感謝されたという経験が先生方の自信となるはず。自信のある先生はどんな新しいことにも前向きに取り組む。先生方に自信を持たせるよう様々な機会を与えてもらいたい。 ・「笑育」についていけない先生方のフォローをお願いしたい。</p> <p>第3回（3/18） ○「進路指導」について ・15～20%の生徒が看護系。 ・産近甲龍等、中堅私大以上をめざす生徒が増加。 ○「学校経営計画」について ・ICT活用率は94.4%。 ・「笑育」は新しい形態に → 「探究（へんな授業）」</p>

<p>○「学校生活に満足している」が、83.3%。昨年（87.6%）に引き続き8割を超えており、生徒の満足度は非常に高い。また、保護者「金岡高校は良い学校だと思う」の肯定値も96.7%と非常に高い評価をいただいております、これまでの学校運営に対して高く評価してくれている。</p> <p>○教員の自己研鑽の意識と行動を、現状に甘んじることなく、より高め維持するための環境整備をさらに整えていくことが求められる。</p>	<ul style="list-style-type: none">・金岡高校は何かやっているという期待感があると思う。・生徒達のさまざまな力を引き出す取組みをやっているということに敬意を表する。・教員の意識改革は時間が掛かるように思う。「探究」も教員が引継いでやってもらえるような形を考えてほしい。 <p>○全般的に</p> <ul style="list-style-type: none">・若手の先生方に変化の重要性を理解させてほしい。・中学生・その保護者が高校を選ぶ時には、大学への進学実績が重要な基準となるので、進学実績を伸ばすようにお願いしたい。
---	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学習&生活習慣の確立と基礎学力の定着、進路実現	<p>(1) 授業力を改善&最強化し、基礎学力の定着を支援 ア プロジェクトチームを結成し、授業改善を推進 イ 全授業の冒頭でタイトル(めあて)を明示 ウ 生徒のデータの一元化とトータルな学習支援プランの作成と実践 エ インターネット 双方向ライブ配信システムを構築してリアルタイムでインタラクティブなサテライト授業の実施</p> <p>(2) 生活習慣の確立と、一人ひとりの時間創造をサポート</p> <p>(3) 学力&生きる力の源泉「言葉のチカラ(言語技術)」を徹底マスター「骨太の日本語力養成プロジェクト」</p>	<p>(1) ア・若手を中心に授業力改善&最強化プロジェクトチーム「チーム・ゼロ・プラス・ワン」を編成する。 ・全教員が ICT を利活用した実験授業に挑戦。 ・全教員が他の実験授業を観察、助言しあい、成果検証を行い、改善点について全教員で情報を共有する(9~1月)。 ・第1回の授業アンケート(7月)で課題を把握し、第2回(12月)での改善を推進、次年度計画に活かす。 イ・全授業の冒頭で、その授業のプラス・ワン=「タイトル(めあて)」を明示する。 ウ・きめ細やかな3年育成トータルプランを描いて、進路実現をサポートしていく。 エ・他校指導教諭によるサテライト講習の実施 ・パートナー校との双方向授業実施(初年度試行、2年日以降定期実施)。 ・本校教諭による小中学校へのインターネット出前授業配信(年間10回) ・本事業でのトライアルと成果を府立学校全体で共有できるよう基礎データと情報を蓄積・発信。 ・3年後には私立高校や大学、海外とも連携し、授業交換を行う(週1回程度)。 (2) ア・生活実態調査を実施し、時間管理術を指導。 遅刻に関しては定期的な遅刻指導等を実施。 (3) ア・読書実態調査を実施し、高校生の全国平均(月1.7冊)と比較し、読書を促す戦略を練る。 ・各教科ごとに「高校時代に、絶対これだけは読んでおきたい5冊」を選定し、図書室に並べると同時にネットで公表。各授業にも援用して、教科ごとの読書率を競う。 イ・日々の授業で、コミュニケーション能力のトレーニングを意識して実施 ウ・ソーシャルスキル(傾聴力ピアリスニング、アンガーマネジメントほかエモーショナル・リテラシー等)やファシリテーションスキル向上などを目的とした各種の研修を教員向けに実施。</p>	<p>(1) ア・「授業で ICT を活用している」H26=31.3%を80%→90%→100%に ・全教員の実験授業挑戦H27≥70%、H28=100%をめざす。 ・学校教育自己診断「授業はわかりやすい」を、H27≥80%、H28≥90%をめざす。 ・学校教育自己診断 ICT 関連項目の満足度、H27≥70%、H28≥80%をめざす。 ・学校教育自己診断「授業の工夫満足度」H27≥80%、H28=100%を目標とする。 ・「授業参加度」≥80%をめざす。 ・2回目の授業アンケート結果における生徒の授業満足度H27≥80%、H28≥90%以上をめざす。 ・「授業互見率」=100%(←全員) イ・授業の冒頭時タイトル明示率 H27≥80%、H28≥100%目標。 ウ・教育産業の学力生活実態調査における数値について、「平日の自宅学習時間」が平均30分未満の学習者70.1%→50%、「ほぼ毎日、自宅学習する」18%→35%、「学習や進路実現に向けての不安や悩み」62.3%→50% ・学力生活実態調査の学力指標GTZ(H26.9月:S1~S3=0%,A1~A3=0.6%,B1~B3=24.6%,C1~C3=56.5%,D1~D3=18.3%)で、国公立難関大学を狙えるAゾーンをH27=2%→3%→5%に。中堅校を狙えるBゾーンをH27=30%→40%→50%に。DゾーンをH27≤15%→10%→5%に。 ・学力不足による留年、中退者H26=0.2%を限りなく0%に ・難関校(国公立・関関同立7人)と私立中堅校の合格者80人をH27=10人、90人、H28=13人、100人とする。 エ・教職員の授業改善に対する肯定率の向上 H27≥80%、H28=100%をめざす。 ・現役大学進学率(H25=45.2%)H27=50%、H28=55%、H29=60%をめざす。 ・進路希望実現率 H26=59.3%をH27=70%、H28=75%に (2) ア・携帯・スマホの使用時間H27≤3h、H28≤2hを目標とする。 イ・総遅刻者数H27≤3,000、H28≤2,500、H29≤2,000に (3) ア・図書室利用者数、H27は≥30、H28≥50人を目標とする。 ・高校生全国平均一カ月1.7冊を上回る目標について、H27=4冊。H28=5冊以上を目標とする。 イ・生徒向けの学校教育自己診断の授業参加度は、H27=80%、H28=90%以上を目標とする。 ウ・独自アンケートで調査する「自己肯定感」を、世界でもっとも低い日本の高校生の平均45.8%を上回る60%→70%→80%に ・教員向け研修、年≥3回実施</p>	<p>(1) ア・今年度2学期より全てのホームルーム教室にプロジェクターを設置。機器取扱のための研修や若手教員のICT活用授業を校内発表させる等の効果もあり、活用率は目標の90%を上回った。(94.4%)(◎) ・全教員の実験授業挑戦55.4%。(○) ・学校教育自己診断「授業はわかりやすい」61.7%。目標のH27≥80%に届かず。(△) ・学校教育自己診断ICT関連項目の満足度、86.0%。H27≥70% H28≥80%を超える。(◎) ・学校教育自己診断「授業の工夫満足度」83.3%。H27≥80%を超える。(◎) ・「授業参加度」74.3%。(○) ・2回目の授業アンケート結果における生徒の授業満足度83.3%。(◎) ・「授業互見率」73.6%。(○) イ・授業の冒頭時タイトル明示率は、81.8%。H27≥80%の目標を上回る。(◎) ウ・教育産業の学力生活実態調査における数値について、「平日の自宅学習時間」が平均30分未満の学習者48.4%、目標の50%切りを達成。(◎) 「ほぼ毎日、自宅学習する」は18.6%、微増(H26=18%)に留まる。(△) 「学習や進路実現に向けての不安や悩み」は目標数値(50%以下)に達せず69.5%。(△) ・学力生活実態調査の学力指標GTZの国公立難関大学を狙えるAゾーンは0.83%で目標値を下回り、突出した者の数が減るも中堅校を狙えるBゾーンが43.3%にのぼり全体的にアップ。また、Dゾーンは目標値15%以下をクリアし、12.5%であった。(◎) ・学力不足が理由と判断できる留年、中退者0.18%。昨年(H26=0.2%)からより0%に近づく。(◎) ・難関校の目標10人に対し5名。また、私立中堅校の合格者は63名で、昨年実績に届かず。ただし、センター受験者は増加傾向(H26=25名、H27=47名)にある。(△) エ・教職員の授業改善に対する肯定率の向上は、80.8%。H27≥80%を達成。(◎) ・現役大学進学率は46.7%で、目標の50%に届かず。(△) ・進路希望実現率51.1%。数値が下がったものの(H26=59.3%)、安易な妥協が相対的に減ったと進路指導担当が認識。(◎) (2) ア・携帯・スマホの使用時間は、平均176分。H27≤3hの目標を達成。(◎) イ・総遅刻者数は3325名で、目標に届かず。(△) (3) ア・図書室利用者数、18.8人/日。昨年度の10名からほぼ倍増しているが、目標値(H27≥30)には届かず。(○) ・本校の平均読書量は3.5冊/月。高校生全国平均1.7冊、昨年度本校数値3.05冊をいずれも上回ったが、目標の4冊には届かず。(○) イ・授業参加度は、74.7%。2年生の数値(70.3%)がとくに低いため、学年のバックアップ体制の強化を検討。(○) ウ・「自己肯定感」62.9%で、日本の高校生の平均45.8%を大きく上回る。(◎) ・教員向け研修は今年度4回実施。(◎)</p>

<p>2 安心安全でグローバルな学校づくりと環境整備</p>	<p>(1) 安全安心な学園環境を整える ア 教師による上から目線を避け、心穏やかな学園空間を演出 イ 通学路など学園内外での安心安全の確保 (2) 教育相談体制、サポートの充実 ア SSW のケース会議で教育相談支援 イ 障がいのある生徒の自立・学習支援 (3) 地域に支持される「グローバル・リーダーズ・ハイスクール」 ア 地域や保護者の皆さんの学校参加 イ 生徒が主役の学校づくり</p>	<p>(1) ア・「金高スマイル・プロジェクト」を編成し、よそさまの大切な子供を預かっているのだという意識の醸成と穏やかな学園空間づくりを心がける。 ・「命令形のアナウンス・ゼロ運動」を実施。 「きょうも学校に来てくれてありがとう！」というウェルカム精神で気持ちよく生徒を迎えて一日をスタートする。 イ・地域やPTA、周辺の小中学校とも連携して、通学の安全を確保する活動を展開し、小さな改善を積み上げていく。 (2) ア・SSW中心のケース会議を毎月開催して学級運営や学習支援をバックアップする。 イ・障がいのある生徒の自立と進路実現を目標に、環境を整備し、日常をサポートしていく。 (3) ア・通学の安全確保や各種イベントなど日々の教育活動への地域や保護者の皆さんの積極的な参加を促し、協力を仰ぐ。 ・授業参観ウィークを設定(11月) イ・「生徒が主役」の生徒会執行部、HR活動、委員会活動、部活動、行事をめざすべく、教師の意識改革を促す。教師はあくまで黒子で、陰のサポート役に徹する。</p>	<p>(1) ア・総括ほか校内文書から使役の助動詞「～させる」など使役の表現を極力排する。(文書1ページに1箇所以下)については、継続してゼロを維持する。 ・H27=ゼロをめざす。 イ・自転車通学の事故ゼロ・正門前道路の北側に信号機の設置については、H27以降、環境整備の訴えかけをあわせて、改めてゼロをめざす。 (2) ア・SSW ケース会議を月1で開催。独自調査による教師の精神的負担軽減指数80%以上について、H27も継続して100%をめざす。 イ・生徒向け独自調査による「障がいのある生徒のために(設備や環境等について)改善すべき点がある」について、環境改善を図り、H27\leq30%、H28\leq5%をめざす。 (3) ア・入学者選抜志願倍率を、府立高校(全日制普通科)の平均以上をめざす。 ・授業参観ウィークについては、創意工夫を凝らしてH27\geq100人、H28\geq200人超をめざす。 イ・クラブ加入目標 H27\geq85%、H28\geq90%。 ・文化祭・体育祭など各種行事後の生徒向けアンケート結果における満足度 H27=100%目標。</p>	<p>(1) ア・昨年度に引き続き、ゼロを維持。教員の意識に浸透してきているものと考ええる。(◎) イ・自転車通学の事故総数32件。1年生4・5月の件数が21件あがっており、この時期の安全確保が課題。(△) 正門前道路北側の信号機設置については、環境整備の訴えかけを継続中。今年度は市・府議員等の積極的な動きもあり前進していると考ええる。(○) (2) ア・これまでにないタイプの生徒や複雑な背景を持つ生徒が入学してきている現実があり、教師の精神的負担は非常に重い。本校における教育相談支援の制度と存在は大きく、教員の軽減指数は、100%である。(◎) イ・環境改善を必要とするが、37.1%。障がいのある生徒が他者の助けを必要とする段差等はなかなか解消されない。(○) (3) ア・平均値に及ばず。しかし、昨年度より1クラス(40人)増の状況下で健闘したといえる。(○) ・授業参観ウィークは、10人弱。より創意工夫を凝らす必要あり。(△) イ・クラブ加入率93.3%。1年生の加入率が飛躍的に伸びている。維持するための努力が今後の課題。(◎) ・文化祭・体育祭など各種行事後の生徒向けアンケート結果における満足度は、昨年引き続き100%を達成。(◎)</p>
------------------------------------	---	--	--	---